

あいさつ

深谷市教育委員会教育長 小柳 光春

深谷市立藤沢小学校におかれましては、平成 28・29 年度の 2 年間にわたり、埼玉県教育委員会から埼玉県道徳教育推進モデル校の研究委嘱を受け、平成 29 年度は文部科学省の実践研究協力校として、『よく考え、ともに学び、よりよい行為を実践できる子どもの育成 ―特別の教科 道徳による学校教育目標の具現化を通して―』を研究主題に掲げ研究を進め、その成果をここに発表されますことに、心から敬意を表します。

深谷市教育委員会では、郷土の偉人洪沢栄一翁の心を受け継ぐ教育を推進するために、深谷市教育振興基本計画「立志と忠恕の深谷教育プラン」を策定いたしました。その中では「たくましく生きるための心と体の育成」を基本目標に掲げ、「まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進」を図るために、各学校が創意工夫ある教育活動を展開できるよう努めているところです。

藤沢小学校では、自校の特色を活かしながら、「道徳の教科化を見据えた実践」について取り組んでいただきました。

これらの取組による研究成果が、本市はもとより、本県の今後の道徳教育のより一層の充実に資することを大いに期待しております。

結びに、本研究に際し、御指導、御支援をいただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、嘉藤校長先生をはじめ藤沢小学校の先生方の御努力と、様々な面において支えていただきました保護者、地域の皆様の御支援に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

研究発表会をむかえて

深谷市立藤沢小学校長 嘉藤 央

本校は、平成 28・29 年度の 2 カ年、埼玉県教育委員会の委嘱を受け、道徳教育研究推進モデル校、平成 29 年度は文部科学省の実践研究協力校として、「よく考え、ともに学び、よりよい行為を実践できる子どもの育成」―特別の教科 道徳による学校教育目標の具現化を通して―を研究主題に、道徳教育推進に係る研究を進めております。

研究内容としては、「学校全体で重点項目を明確にし、指導を進めること」「道徳の授業を要として、他の教育活動と密接な関連を図り、教員が意識をもって児童へ働きかけること」で、「児童が自分事として考えを深め、道徳的实践につなげようとする」「児童が生活の中でよりよい行為が実践できること」につながると考え、仮説を設定しました。

仮説を踏まえ、授業づくり部では「特別の教科 道徳」の指導方法の充実と評価についての検討をし、「課題を設定し、書く活動で振り返る道徳の授業」「多様な授業展開」「道徳ノートを活用した評価方法の工夫」等に取り組んでいます。指導計画部、調査部、環境部では「実態把握に係る諸調査」から、「重点項目を明確にする指導計画、別葉の作成」「各種環境整備」により、道徳教育推進に係る「見える化」を進めています。

本日、これまでの研究成果をご覧いただきますが、平成 30 年度の道徳の教科化へ向けて、本校の教育活動の更なる充実を、全教職員で目指して参りたいと考えております。本研究をご高覧の上、忌憚のないご指導、ご助言をいただければ幸いです。

結びに、本校の道徳教育に係る研究推進に当たり、ご指導、ご助言を賜りました文部科学省初等中等教育局教育課程課、埼玉県教育局義務教育指導課、北部教育事務所、深谷市教育委員会の先生方を始め、直接授業のご指導を賜りました先生方に、職員一同心より厚く感謝申し上げます、あいさつといたします。

研究の概要

研究主題

「よく考え、ともに学び、よりよい行為を実践できる子どもの育成」
— 特別の教科 道徳による学校教育目標の具現化を通して —

学校教育目標

○な か よ く (徳)
○か し こ く (知)
○た く ま し く (体)

校長の方針

道徳科の授業を要とした全教育活動を通じて行う道徳教育を意図的・計画的に推進する。
推進にあたっては、他の教育活動との関連及び家庭や地域との連携を図り、道徳の教科化を踏まえ、よく考え、ともに学び合える授業改善を図り、よりよい行為を実践できる子どもの育成に努める。
○研究の成果は冊子にあるのではなく、教室における学びの事実にある。子どもの成長の事実が、研究成果として現れる。
○教師に見せるための授業ではなく、児童に還元する授業研究を行う。
○保護者が気楽に参加でき、保護者自身にとっても喜びとなるような授業公開をする。
○文部科学省の事業を活用した県の研究推進モデル校として、研究の経過を積極的に他校及び家庭や地域に発信していく。

目指す児童像(重点目標)と道徳科の内容項目との関連

ふるさとを愛し、ともに学び、伸びゆくふじさわっ子の育成

- ① 目を見てニコリ、笑顔で挨拶できる子 (笑顔)
→ B親切, 思いやり B礼儀 C公正, 公平, 社会正義
- ② 夢や目標をもって、粘り強く努力できる子 (努力)
→ A希望と勇気, 努力と強い意志 Dよりよく生きる喜び
- ③ 明るい返事で、仲良く助け合える子 (仲間)
→ A正直, 誠実 B友情, 信頼
- ④ 感謝の気持ちで、ふるさとを愛せる子 (感謝)
→ B感謝 C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
Cよりよい学校生活, 集団生活の充実

研究の仮説

仮説1 学校全体の重点項目を明確にして、その道徳的価値を理解し、自分事として考えを深めることができれば、実践へとつなげようとする児童が育つであろう。

仮説2 重点項目において、道徳の授業を要として、他の教育活動と密接な関連を図り、教員が意識をもって児童への働きかけができれば、児童が生活の中でよりよい行為を実践できるであろう。

研究の組織

